

姫と式神

ひめ

しきがみ

総数五十四枚
獣人×人間の異種和姦集

PAPRIKA CAKE



-女中-

姫が独り立ちしたと同時に
世話係として屋敷についてきて
姫の身の回りの世話を
おこなっている女性。

-式神狐-

姫の一族に長年仕えている狐の式神。
しかしその実態は
代々の自分の主人である姫を犯し
情交の喜びを仕込み続ける狐のあやかし。
妊娠はしないので姫が婿を迎えるまで
責任をもって性行為をし続ける。

-式神使いの姫-

代々受け継いだ式神を用いて
占いや悪霊払いをおこなっている
式神使い一族の姫君。
初めて狐に犯されて以来
性に関して奔放になってしまった。



ある日の目中。

姫と式神がいつものように
仲良さげに散歩を済ませ屋敷内に消えてゆく。
部屋に行き戸を閉め切る二人の様子を
不思議に思った女中は何気なく後をつける。



今日もお美しい姫様と
式神の狐さんが
お散歩していました
なのにお天気のいい日も関わらず
お二人は部屋に閉じこもってしまい…

一体どうしたのでしょうか？
姫様の具合が
よろしくないのかしら…



戸の隙間から部屋を覗く女中。
中では姫と式神が
淫らに舌を絡ませて
着物をはだけさせている。



女中も
何が行われているか気が付き
顔を赤面させつつ
二人が口を吸い合う様に
目が離せなくなる。



まさか…
姫様と獣の狐さんが
あんなに
いやらしい事を…？

そんな…



ん…

上半身をはだけさせて
狐のペニスを愛撫する姫。
舌で先端を舐めながら乳首をこすり
姫はその一物の体温を感じる。

式神に髪と首筋を撫でられると
自然と声が漏れ、頬を紅潮させている。



まだ何もしていないのに
こんなに硬くなつて…
いやらしいケダモノだ

姫さまだって我慢できずに
すっかり発情した顔つきですよ

…馬鹿

んく…
ズルズル

くちゅくちゅ

ズリズリ



姫はいきり立ったペニスを丹念に舐めて
喉の奥まで味わっている。
濡れた音をわざと大きくたてて
情欲を駆り立てる姫に興奮を抑えきれない式神。



お前の一物はずっと
火傷しそうなくらい
熱いな...

私の身体も
蕩けてしまいそうだ

い
しゃろっ

ち
やろっ

へ
ろっ

い
しゃろっ

ち
やろっ

ち
やろっ

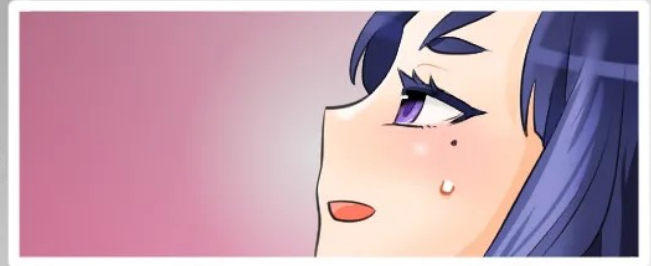
ん
んっ

ん
んっ

何も知らなかったお姫様が
こんなに淫乱になるなんて
意外でしたよ

初めて式神の狐に犯された時のことを思い出す姫。

まだ未熟な体に猛々しいペニスを突き立てられ
血をにじませた性器に
たっぷりと獣の精を吐き出された時のことを思い返すと
姫の膣からは自然と愛液が溢れだす。





何を言っている
私の身体をこんなに
淫らにしてくせに

何も知らない私に
夜這いして
快楽を植え付けたのは誰だ？

やあ

ひゅっ

きゅん

やあ
いたいよ

きゅん

きゅん

きゅん

きゅん

きゅん

きゅん

きゅん

きゅん

あ

式神は姫の身体舐め
乳首も丁寧に愛撫する。

狐の大きな手に身体をつかまれ
姫の身体は小刻みに震えながら
目を閉じてじつくりと
柔らかい舌の感触を楽しんでいる。

小さな声で姫が喘ぎ声を漏らすと
式神の手も自然と力が入った。







性器を広げ中を覗くと
姫の膣は愛液が溢れ
滴っている。

膣とその周りも舐め
姫の女の匂いを存分に感じ
式神のペニスは
よりいっそう怒張する。



また
そんなこと言つて...
私だつてお前の
大きなモノが入つてると
苦しいんだぞ?

こんなにカワイイ穴に
私のものが入るなんて
不思議ですね



式神にまたがって口を舐めあう姫。
よく濡れそぼった性器に
ペニスがするりと入り込んだ瞬間、
姫の口から一際大きな喘ぎ声が出る。





胸を乱暴につかみ
突き上げるようにピストンする式神。
淫靡で粘った音が部屋に響くなか
姫の膣は痙攣するようにうねっている。



女中は卑猥に腰をくねらせ喘ぐ姫の
いつもとは違う表情から目が離せなくなり
胸を高鳴らせている。





式神が覆いかぶさり足を広げ
より深くペニスを挿入すると
姫の腹部の肉が小刻みに震えた。

軽くイって力が入らない姫の身体は
獣の手で傍若無人に弄ばれている。

馬鹿つ♡♡
私はお前の
主人なんだから
丁寧に扱え

あっ♡♡

ヒクッ

はあ

くっ
くっ

ん
ん

ぐっ
ぐっ
ぐっ

ぐっ
ぐっ

ブル
ブル

がっ
がっ

そんなこと言っても
姫様の肉壺はこんなに
トロトロになつて
私のモノを咥えていますよ



じらす様にペニスを引き抜き
姫の体位を変えて尻穴と膣を
じっくりと眺める式神。

姫は赤面しつつ膣肉をひくつかせて
挿入をおねだりしている。
性器から溢れている愛液が床に垂れて
辺りにメスの匂いを漂わせている。

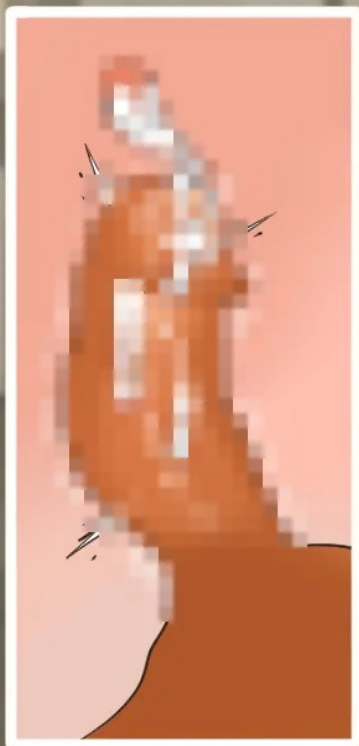




後ろから一気に挿入し
激しく子宮口をペニスで突く。
がくがくと身体を揺らされ
快感で声も出せない姫に
式神は容赦なく膣内をかき混ぜている。







式神が腰をつかみ
乱暴にペニスを出し入れすると
姫は涙を浮かべつつ絶頂する。

膣肉をひくつかせてペニスを扱くと
その子宮には
たっぷりと獣の精液が注がれた。
跳ねるように射精するペニスの感触で
姫は二度、三度とイキ続ける。



ぐったりしている姫の脚を広げ
性器を広げる式神。

ヒクヒクといやらしく動く性器からは
愛液が混ざった精子が流れ出ている。
息を荒くして身体が動くたびに
柔らかい姫の胸はフルフルと揺れる。





あんなに
そんなに
広げらんじゃない...

はー...
はー...

ん...
せつかく
中に出したものが
垂れてしまうじゃないか...

ひく...ん

きゅ...

ブル...

フ...

くちゅ...

ゴク

くちゅ...

起き上がり女中の
隠れている方向を見る二人。

女中は誘われるがままに
中に連れていかれる。



じゃあ次は
そちらのお嬢さんにも
入ってもらいましょうか？

たまには変わったことも
しませんとね…

ちい

！

どきっ

今晚から私の夜は
長くなりそうです…





口にもたっぷり射精され
女中はすっかり
精子の味を覚えてしまった。

処女の女中も式神に犯され
血が混ざった精液が膣から溢れている。
女中の脚を押さえ式神に向かって
挑発的に二人の性器を見せつける姫。



ふふ…
相変わず
酷い獣だな
お前は

生娘あいてに
こんなに荒々しく
中出しをして

この娘が
もうお前以外の一物では
満足できなくなったら
責任とれるのか？

ぐわ…
ぐわ…
ぐわ…
ぐわ…

はく…
はく…
はく…
はく…

ぐわ…

ぐわ…

ぐわ…

ぐわ…

ピストンされている間も姫に
愛撫され口を吸われているので
休む暇なくイキ続けている。

一晩中ペニスを挿入され
クタクタになっている女中。





とても可愛いぞ

もつと早く

仲間に

入れればよかったな

しゅわん

あい

ひあ

やいあ

私もお嬢さんの
健康的な体には
興味がありましたからね

フルン

しゅわん

スッ
スッ

スッ
スッ
スッ











